

自民党は23日、都内のホテルで党大会を開いた。谷垣禎一総裁は「民主党政権がもたらした日本の危機はあまりに深刻で、座視できない。通常国会では民主党の失政を徹底的に追及し、その手を緩めることはない」と強調。その上で「今年こそなんとしてでも政権を解散に追い込み、再び政権を担当するためにがんばりたい」と政権奪還へ決意を表明した。

野党転落後2度目となった今大会では民主党政権の支持率低下を背景に党幹部から強気の発言が続出。菅直人首相が呼びかける税と社会保障の一体改革の与野党協議について谷垣氏は「マニフェストの撤回が前

自民「今年こそ政権奪還」

野党2度目の党大会

提」と指摘。石原伸晃幹事長も「与党の責任を逃れようとするひきょうでこそくなやり方だ」と対決姿勢を鮮明にした。

来賓として出席した公明党の山口那津男代表は「全国各地で培ってきた信頼・協力関係を最大限にいかして国民に奉仕していきたい」と連携を強調。一方、



対決姿勢強める

自民党大会で氣勢を上げる谷垣総裁(23日、東京都千代田区)。

2年ぶりの出席となった日本経団連の米倉弘昌会長は「来年度予算・関連法案、税と社会保障の一体改革など、重要政策の実現に向けて超党派協議に積極的に参加していただきたい」と注文をつけた。